



ネイチャーなら

《わたしたちは大和の自然を愛します》

発行2014年5月1日

5月号・第148号

奈良・人と自然の会

会長 藤田 秀 憲



新連載。「やさしい病害虫講座」



Contents



多土済々.....	①	青垣春秋.....	⑬
Monthly Repo.ならやま.....	②	俳句百景.....	⑭
里山の今.....	③④	癒しの散歩道&ならやま茶論.....	⑮
新入会員歓迎会・珍客来訪・四阿竣工.....	⑤⑥	Galleryならやま.....	⑮
3月例会・巨勢古道探訪.....	⑦	古都法買入地管理・使用協定.....	⑰
4月例会・春季花見ハイキング.....	⑧	ならやまプロジェクト.....	⑱
佐保川わいわい桜祭り初参加.....	⑨	行事案内part1.....	⑲
自然教室チームだより.....	⑩	行事案内part2&奈良学クイズ.....	⑳
歴史研修・神武東征の史跡を巡る.....	⑪	幹事会報告・ペン画に寄せて.....	㉑
やさしい病害虫講座①.....	⑫	4月号訂正・編集後記.....	㉒

会報紙はカラーでホームページに掲載しています。 URL <http://www.naranature.com>



ペタキン先生

羽尻 嵩さん

顧問 川井 秀夫

当会の里山ベースキャンプには、毎回60人前後の会員さんが自主的に集まります。それぞれ個性豊かな、一芸に富んだ経験・技術をお持ちの方ばかり、そんな人達の中で今回は羽尻嵩さんをご紹介します。



三年前にシニア自然大学を修了され、当会に馳せ参じて頂きました。ご本人は無能だと謙遜されるのですが、一昨年近畿大学の

要請もあって絶滅危惧種のニホンバラタナゴの育成を里山の一角にある池を改良され取り組んでこられました。自称ペタキンの羽尻さん（ペタキンとは奈良地方の方言で、この魚の異称）として、水質管理・外敵防除・水生生物調査・産卵環境整備と寒暑を厭わず、頑張っておられます。

その執念が実り10匹の成魚が340匹の稚魚を生む成果に繋がり、指導された近大から当会に対し「育種達成第一号」の認定書を受け、一願達成を実現されました。

自然保護活動の観点から、当会としても名誉ある昨年度のトップニュースではなかったかと思っております。

ご本人は飄々として、独特の語り口で無意識の中にユーモアを感じさせる味わいがあり、人生を超越された雰囲気を感じております。

現役時代は一貫して聖職に就かれ、社会学科

の教師生活を送られたと伺っております。スポーツも女子のバドミントン部の長として、選手と一緒に動き回られ、親愛を込めたジリさんの愛称で人気があり、今日の体力の源になっているとお聞きしております。

私とは、先年シニアの囲碁愛好会で偶然お会いしたのが初対面でした。既に当会のメンバーであった事もあり、毎月一回、学園前の碁会所で対局する事が定番になっております。

現在の棋力は双方三・四段レベルでしょうか。勝負は一進一退で、最近は少し私が打ち込まれ気味で御座います。職業柄、棋風は理論派と思いきや、奇手に惑わされる事が多く術中にはまり、頭を掻くことが多くなっております。

お酒も強く、対局後は近くで一杯やりますが、なかなか聞き上手な方で、あの語り口でやんわりと包み込まれて終わります。

先日、余生の夢の話になりましたが、もう少し「哲学」を極めたいと、社会学の倫理がお得意であった事からムベなるかなと感服致しました。現代の軽くなった人間社会に対するもどかしさが底意にあるのでしょうか。

好漢、益々ご自愛の上、ご精進下さい。囲碁はまだまだ負けませんぞ。



(水生生物調査中)

Monthly Rep. ならやま

◆3月27日(木) 曇り後晴れ 65名+2名

25年度に入会した人、今回新たに入会した人を対象に新入会員歓迎会がお昼に開催された。会費制で、おでん、焼きそば、焼肉・野菜などの美味しい食べ物のほか、甘酒、ビールなどの飲み物も十分準備され、楽しい賑やかな時間を過ごした。食べ物も十分にあり、持参したおにぎりも持ち帰りとなり、奥様から叱られることとなった。

活動は午前中のみで、里山Gではナメコの菌打ち、カシナガ被害木の地際での玉切り。エコファームGではコマツナ・ホウレンソウの播種。景観Gは彩りの森の除草、水路の落ち葉除去、草花を寒さから守っていた霜除け資材の除去。草花も背伸びをしてニコニコ。

◆4月3日(木) 晴れ 57名+5名

県が建設した四阿(あずまや)の竣工検査が行われ、一般使用が可能となった。

里山Gは、カシナガ被害木の下位部分の玉切り。エコファームGは、ニンジン・ゴボウ・マナなどの夏野菜の播種、タマネギの除草。景観Gは、JR横の水路に溜まった大量の枯れ枝・落ち葉・泥の除去作業。第5地区でのスダチ・カキの植樹、BC周辺の除草、ならやま池の生物調査、山野草花壇の大幅な整理。

◆4月10日(木) 晴れ 暑い 64名

5月3日の「わくわく!ドキドキ!お山を歩こう!」のイベントに向けて、パトロール班は親子ハイクのコース・ゲーム課題などを検討。工作班は自然工作の材料となる竹、丸板などの加工を本格化。さらに山での冒険遊びの場所・コース設定も実施。

気温の上昇に踊らされてタケノコが一斉に顔を出し、挨拶にやって来た。

里山Gは、カシナガ被害木の搬出・薪割り・焼却等の処分を急ピッチで実施。太くて重たい切り株の搬送はかなりの重労働であった。



エコファームGは、育苗したナス・ピーマン苗の植え替え、野菜畑の牛糞投入による土壌改良。景観Gは、彩の森の除草、ならやま池のアオミドロ除去、フジバカマ・ニラの植え替え。

◆4月17日(木) 晴れ 暑い 64名+7名

県の森林技術センターからカシナガ被害伐採木の有効利用として、加熱処理による樹幹内のカシナガ幼虫の絶滅と菌接種によるキノコ栽培技術について指導を受けた。1~2年後にはシイタケ、マイタケの発生が期待される。さらにウバメガシ苗利用による本シメジの接種指導も受けた。

県から景観・環境局の次長一行が来られ、現場を案内し、活動状況の一端を見てもらった。

カシナガ被害伐採木の後処理(根株の燻蒸処理)が遅れており、虫の発生時期も迫っているので、総動員してその処理に当たった。



エコファームGは、サトイモ・レタスの植え付け、エンドウの蔓の固定作業。景観Gは、彩の森の除草、第5地区のソバ畑の溝切り、水生生物調査、ジンジャの植え替えなど。(木村 裕)

ならやま花だより

吉村 さつき

4月17日(木)花たちが
お待たせしましたとばかりに
白・黄・赤・ピンク・青・紫色と可愛
い花をつけています。花が美しく装うのは昆虫
を呼び寄せる為だけでなく、紫外線に対抗し抗
酸化物質で種を守っているそうです。

里山ではタカノツメが美しい緑色の葉を出し
ています。新芽は天婦羅やおひたしにして食べ
る事が出来ます。

東池近くの保護された一角の一面にニオイタ
チツボスミレ(匂立坪菫)が咲いています。紫
色の絨毯の様です。花は花弁がまとまって咲き
濃紫から紅紫で中心の白い部分がはっきりして
います。丸くて立ち上がる葉が特徴です。

スミレの仲間は非常に変化が激しく変種や色



変りを含めて学名のあるものが250もある
そうです。

[草花]ヒメオドリコ
ソウ、オオイヌノフグ
リ、ナズナ、タネツケ
バナ、スズメノエンド

ウ、カラスノエンドウ、スズメノヤリ、タンポ
ポ、キュウリグサ、オランダミミナグサ、ムラ
サキケマン、スイバ、ヘビイチゴ、カタバミ、
ムラサキサギゴケ、ヤエムグラ、カキドオシ、
ヒメウズ、シハイスミレ、ニョイスミレ、タチ
ツボスミレ、ニオイタチツボスミレ、ショウジ
ョウバカマ

[木の花]クサイチゴ、ミツバアケビ、アケビ、
アオキ(雄花)、コバノミツバツツジ、ヒサカキ、
スモモ、ツクバネウツギ、コバノガマズミ、ザ
イフリボク、ウワミズザクラ、コナラ、クヌギ、
サンキライ

[花壇]ムラサキハナナ、シャガ、ジュウニヒト
エ、スズランスイセン、ムスカリ、チューリップ、
ユキヤナギ、パンジー、レンゲソウ、ヤゲ
ルマソウ



ペタキン日記 24

羽尻 嵩

4月3日(木) タナゴ池の水質改善
策として12月に採って保管していた
クワイの種芋(写真1)20~30個をプ
ランターに入れる。芽が出てきて10cm
ぐらいに伸びたら池の浅瀬に移植する予定だ。



4月10日(木)
この日の最大の
成果は土管
に詰まっていた
異物を除去
できたことだ。
川勝さんが内

径20cmほどの土管(写真2)を切断すると、
直径15cm長さ30cmぐらいの竹筒が出てきた!



竹の中はびっ
しりと落葉や
土が詰まり、こ
れが水の流れ
を止めていた
のだ。なぜこ
んな太くて長

いものが入り込んだのか。自然の仕業か人為な
のか?

ともあれ、半年間も手を焼いてきた土管の詰
まりがなくなり、スッキリした気持ちで春を迎
えられることになり、感謝!

4月17日(木) 東池の生き物を確かめた。
まだ水温は冷たいが、ギンヤンマの幼虫とドジ
ョウが捕獲された。(写真3)



ドジョウの幼魚は赤みを帯びた色をしていた。

サナエトンボ

菊川年明

トンボの中で春真っ先に出てくるのはサナエトンボ類のトンボで、早いものは4月から姿を見せ、5月には大方のものが現れる。サナエトンボという名前の由来は稲の苗、すなわち早苗の頃に現れるところからの名付けである。

このグループのトンボはそのほとんどが黒と黄色の縞模様ないしは斑模様で、縞模様のもは一見オニヤンマふうである。大きさは、大はヤンマ並、小さいものはおおよそシオカラトンボくらいである。サナエトンボ類には大部分が〇〇サナエという名前がついているが、大きなものには〇〇ヤンマという名前がついているものがある。コオニヤンマ、ウチワヤンマなどがそれである。大きさと言い、斑紋と言い、一見オニヤンマのようである。ヤンマと異なるところは、止まるときの姿勢がヤンマは小枝などにぶら下がるようにして止まるのに対して、サナエトンボは水平に止まることである。もう1点、間近で観察することができれば、複眼の並び方が、ヤンマは左右の複眼が中央で密着しているのに対して、サナエトンボの方は左右が離れていて、中央に隙間がある。

早い時期にならやまで見られるサナエトンボはオグマサナエ、フタスジサナエなどであるが、みんなよく似ているので、捕らえて詳しく調べないと同定はむづかしい。私の場合、大体が写真撮影だけなので、撮影したトンボが何サナエなのかかわからないことがよくある。初夏になるとウチワヤンマ、コオニヤンマ（どちらもサナエトンボ）が現れる。（写真はオグマサナエ）



パトロール班 Repo

辻本信一

厳しかった冬の寒さも癒え、待ち遠しかった春がならやまにも訪れた。

四月を迎えると全国各地で桜便りが聞かれたが、ここならやまで桜と言えばヤマザクラ、新緑の葉と共に咲くヤマザクラにはソメイヨシノとは違う趣が有り隠れファンも多いと言う。

群をなすソメイヨシノと異なり一本一本の桜が自らその存在を引き立たせる。

春を迎え文字通りならやまは花盛り、コバノミツバツツジは紅紫色の花の色に清廉さを感じさせ我々を暖かく迎えてくれる。

足元を見ればシハイスミレの可憐な花、この



花を愛でたのはつい先ごろのことと思ったが、振り返ればあつと言う間の一年だった。

観察路を覆う落ち葉の落とし主の枝先には若いエネルギーを秘めた新芽が顔をのぞかせる。

コシアブラと黄色の薄い葉を競い合ったタカノツメはその名の通りの新芽の形を整える。

昨年のは後半は体調を壊しメンバーとしての活動が出来ず、皆様に大変御迷惑をお掛けした。

パトロール班のメンバーでありながら、第三者的な言い方と成り申し訳ないが、その間少ないメンバーでやり繰りされ、道標、名称看板等、標識の設置や観察路の整備に尽力された皆様のご努力に心から敬意を表したい。

過日3月10日(月)に実施されたならやま自然観察会は、十分に整備された観察路がその効力を発揮し大成功であった。

5月3日(土)に行われる Green Gift プロジェクトに於いても同じくその効力はいかなく発揮され高く評価されるものと確信している。

平成26年度新入会員歓迎会

ならやまベースキャンプにて盛大に開催

平成26年3月27日(木)、雨による順延で1週間遅れとなったが、新入会員15名の内7名の参加を得て、既会員58名を含む総勢65名が、ここならやまベースキャンプに集い、盛大に新入会員歓迎会が催された。

今年の新入会員はシニア自然大学を修了し入会された方が3名、それ以外は既会員もしくはボランティアセンターの紹介で入られた方がほとんどであるが、中にはご自身がベースキャンプ近くを通り掛り、楽しそうな活動を目にして自分も参加したいと、自ら会員に声をかけ入会された方もいる。

今年も歓迎会の企画、準備、運営は、恒例により昨年入会のメンバーが中心と成り実施したが、提供する料理のメニュー、役割分担、タイムスケジュール、更には調理場や参加者全員の椅子の配置に至るまで、1ヶ月以上も前から入念に打合せを行い万全の状態当日を迎えた。



午前9時受付開始、その後、朝礼の席に於いて藤田会長より、ならやま景観整備事業のこれまでの実績の説明があり、「明るく！元気に！楽しく！そして決して無理せず」とする会のモットーが紹介され、「新入会員の皆様にも早く当会の雰囲気慣れ親しんで頂き、楽しく元気に活動に参加して頂きたい」との挨拶がなされた。

その後午前中は歓迎会担当メンバー以外全員平常通りの活動を行い、新入会員の方々には普段のならやまの姿を見て頂いた。

その間にも担当のメンバーは当日の最終準備に余念なく、竈の設営、竹材を使った、器、箸、コップ等、食器作成にも精を出し、開始直前には、当会自慢の竹を



使ったカッポ酒の準備も始まり、否応なく歓迎会のムードは高まった。

このところ毎週木曜日には雨が降ると言う

状況が続き、当日の天候も危ぶまれたが、曇り空とは言え風も無く、時おり雲間から太陽が顔を出す穏やかな絶好の歓迎会日和となった。

11時40分いよいよ歓迎会スタート、川井顧問の乾杯の発声を皮切りに、おでん、バーベキュー、焼きそばが振る舞われ、仮設屋台の前ではみんなのはち切れんばかりの笑顔が溢れた。



当日は、ノーマイカーデーを実施、カッポ酒以外にも差し入れの酒肴がところ狭しと並び、最後のしめには、これまた差し入れのフルーツポンチのデザートが提供された。

新入会員の方々も杯を重ねると共に饒舌になり、皆さん打ち解けた様子で「会の雰囲気がとても良いので毎週の活動が楽しみ」との声があちこちで聞かれた。



晴れやかな歓迎会終盤には、ベースキャンプ横のサイクリングロードを自転車で通りかかった外国人親子が、気さくな当会会員に声を掛けられ、歓迎会に合流するハプニングがあった。

思わぬ珍客も参加者一同大歓迎、自慢の料理やカッポ酒を振る舞い今流行りのTV番組よろしく「youは何しに日本へ」と質問攻め、楽しいやり取りにすっかり友達となり、歓迎会は大いに盛り上がった。



みんなの顔には笑顔があふれ、今年の新入会員歓迎会も、当会の雰囲気を象徴する明るく楽しいハプニングいっぱいのフィナーレとなった。

担当されたメンバーの皆さん、素晴らしい歓迎会を演出して頂き本当に有難う御座いました。

(辻本 信一)

休憩所ができました！

ならやまベースキャンプに 3.5×5.5mの瓦屋根の立派な休憩所(四阿)ができました。(3月末)

奈良県は、かねてより古都法管理地の景観整備が進んだことにより、自転車道(奈良西ノ京一斑鳩線)沿いにサイクリングや散歩中の方が一休みできる所があれば、休憩所を設置したいと計画中でした。

いろいろ検討されたようですが、古都法管理地で一番ふさわしいのは、ならやまベースキャンプ地であると判断されたようです。

ちょっと立ち寄って休もうとされる方には、ならやま里山林、季節の農園や草花が一望できるこの場所が一番良いとのことでした。



休憩所の完成間もない活動日でした。古墳群から歩いて来られた下見役の2の方が、鴻ノ池公園方面に抜けるのにグループで昼食が取れる場所を探しておられました。ここが丁度良いというので訪ねてこられました。「県の施設ですのでご利用はご自由ですよ」と申し上げながら、「ゴミは必ずお持ち帰りください」と付け加えてしまいました。

建物は四阿というより東屋でしょうか。中に木製の椅子を4つ「コの字」型に入れてみました。



これはなかなかのものです。私達も活動日には大いに使わせて頂こうと思います。日陰、雨宿り、休憩時の歓談場所になります。また採れ立て野菜の販売所にも早変わりします。なにより立ち寄った方が私達の活動を理解していただけ、また参加していただけるといいなと思っております。有意義に使わせていただきましょう。(事務局：塩本記)

珍客来訪

スウェーデン人親子との交流

3月27日(木)ならやまベースキャンプにて開催された新入会員歓迎会に合流したのは観光目的で来日し2週間目を迎えるスウェーデン人のエリクソン親子であった。

お父さんはお医者さんで名前はハウキャン



55歳、息子さんは3年の社会経験後、今年大学進学予定のヨハネス、21歳。

京都を皮切りに日本で購入した自転車に乗り、約35日間の日程で西日本各地を旅行するつもりで奈良に立ち寄ったと言う。ちょうど昼食時、食事の取れるところを探していた矢先、目にしたのが我々の歓迎会であった由。気軽に声を掛けられ誘われるままみんなの輪に入り、思いがけなく美味しい料理、飲み物の御相伴にありつき大喜び。会員の中にはスウェーデンやドイツなどヨーロッパでの駐在経験の人もおり、コミュニケーションに不自由なく、60人余りの会員は次々と言葉を掛け合い一気に歓迎交流のムードが高まった。



聞くと宿泊先も未定の気まま旅、会員宅でのホームステイの話もトントン拍子にまとまり本人達は感激。新入会員歓迎会終了後、早速会員宅に移動、15人の会員も加わり、美味しい料理と共に蕎麦打ちの実演で再度のおもてなし。楽しい宴は夜更けまで続いた。翌日は、海龍王寺と平城宮跡を見学後、東大寺や奈良町も探訪

し、その後は一路和歌山へと向かわれた。

(辻本 信一)



3月例会・巨勢古道探訪

～古代の道「巨勢の道」と古代豪族～

(担当幹事；川井、古川、寺田)

3月25日(火)春の麗らかな一日、26名の参加者を得て「巨勢の道」約9kmを歴史文化クラブの案内で探訪しました。

9時30分近鉄葛駅を出発、まず曾我川西岸の畑の中にある「巨勢寺塔跡」を訪れる。椿の林に囲まれて塔の礎石だけが残る。古瀬を本拠地とした古代豪族巨勢氏の氏寺で法隆寺伽藍様式の大寺院があったとされ、多数の古瓦や礎石が発掘されている。しかし往時のスケールを想像するのはむづかしい。



巨勢寺跡にて 岩本先生の解説

巨勢氏の始祖は許勢小柄宿禰で、孝元天皇の子孫武内宿禰の子とされる。6世紀朝鮮半島との外交・軍事に従事して台頭した。継体天皇擁立に功績があり、継体朝から平安時代に亘って大臣、大夫、左大臣、大納言、中納言を輩出した。

次に巨勢寺の子院の阿吽寺を訪れる。椿の名所として名高く、本堂は満開の椿に囲まれている。古瀬町自治会長川田さんをお願いして特別に開帳していただく。本尊は十一面観音、藤原時代の作で豊麗なお顔立ち、脇侍に薬師如来、不動明王が並ぶ。堂内には犬養孝先生の揮毫。

「巨勢山之 列列椿 都良都良尔 見乍思奈許勢乃春野乎」(巨勢山のつらつら椿つらつらに見つづ偲はな 巨勢の春野を)(万葉集巻1-56)大宝元年(701年)9月、持統太上天皇が文武天皇と共に紀国行幸の際、供の坂門人足が椿咲く春を想って詠んだと記されている。



玉椿山阿吽寺にて(右端は川田自治会長)

再び曾我川に沿って進み、ヒキアイモチという珍しい神事で有名な八幡神社を拝観し、次いで水泥古墳へ。6～7世紀築造の円墳で、横穴式石室を有する。南北の2基の古墳は10代続く西尾家の敷地内にあつて昭和36年国史跡に指定された。日本書紀皇極紀元年、蘇我大臣蝦夷が「預め双墓を今来に造る。大陵を大臣の墓とし小陵を入鹿の墓とす」とある。古くは深泥古墳2基をこれに当てたが、今では巨勢氏の首長の一人の墓と考えられている。

朝野川沿いの道を登り栗坂峠を目指す。路傍には可憐な草花が咲き乱れて春爛漫。サンシュ、レンギョウ、ヤマブキなどの黄花が目立って美しい。

栗坂峠に着く。展望が開け金剛・葛城の連山が広がる。葛城川沿いの山麓は葛城氏の本拠地である。葛城襲津彦を始祖とし、娘の磐之媛は仁徳天皇の皇后で履中、反正、允恭天皇の母。5世紀には天皇家に拮抗するまでに権勢を極めた。

峠から葛城川畔に下り、葛木御歳神社に至る。御歳神は稲の神、五穀豊穰の神として尊崇を集めた。新年に御歳神を祀って鏡餅を供え、餅を長老が子供たちに分け与えたのが「お年玉」の始まりとの川井さんの説明。葛城川をさらに遡り、医王山船宿寺に至る。行基菩薩の開祖で、花の寺としても有名。満山、早春の花に彩られた景色に感嘆の声が上がる。

今回はここで解散(14:20)。

バス停「船路」からバスに乗り、巨勢路の自然と歴史の余韻に浸りながら、帰途に就きました。

(中井 弘)

4月例会・春季花見ハイキング

『背割堤の桜を愛でる』

～歴史の町京都・八幡市を訪ねて～

- ・平成26年4月7日(月) 9時30分～
- ・八幡市石清水八幡宮周辺及び背割堤
- ・参加人数24名

前日までの悪天候。果たして花が持つかな、と心配されましたが、これ以上ない程の好天候とあいまって最高の花見ハイキングになりました。

京阪橋本駅には24名、多くの会員に遠路足を運んで頂きました。まず男山に向かって住宅街の中の急な坂道を東へ。途中ではつつじや椿の花など多様な植物観察ができ、自然林「男山」



が堪能出来ましたが、それ以上に目立ったのは竹林の美しさでした。よく手入れされているので、たけのこ販売の露店もそこそこに。そして、30分程で石清水八幡宮へ到着しました。

ここでは早速桜の花が私たちを出迎えてくれましたが、この下に佇むエジソン記念碑を見た後本殿前に移動し、川井さんから男山や八幡宮についてのお話を聞きました。

本殿等を参拝したあと、山の北側にある「展望台」に。ここからは眼下に八幡の市街地や桜の背割堤、遠くには天王山や愛宕山そして比叡山を望む広大な絶景にしばし時を忘れる思いでした。その後、表参道を通り頓宮へ経て高良神社を参拝後、航海記念塔を見学しました。

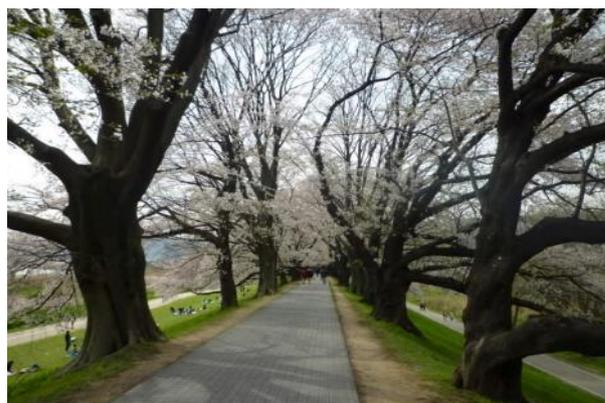


そして本日のメイン見学箇所の背割堤へ足を運びます。八幡市駅から堤へは普通15分程の距離ですが、人、人、人・・・のため2倍の時間がかかりました。本当に歩くのも苦勞するほどの人出でしたが、堤の桜を見て納得。風に吹かれて散り始めた桜もありましたが、今を盛りと、咲き盛る花が殆どでした。これを目当てに最後の桜を堪能しようと、我々と同じように友達同士でまた家族連れでここに沢山の人がやって来ているんだな、と実感しました。

ここではシートに腰を下ろし昼食。花より団子よろしく弁当を食べながらアルコールや桜餅などを賞味し、楽しい時間を持ちました。その後も、桜の中でおしゃべりを楽しんだり、堤の先まで歩いて花を愛でたりしながら、時間を過ごしました。

それでも、流石に帰りの桜のトンネルの中には冷たい風が吹きぬけ、本格的な春はまだかな、という思いを強くした花見ハイキングでした。

しかし、初めてここを訪れた者にとっても、そうでないものにとっても楽しく充実した一日になったことでしょう。(八木 順一)



第13回佐保川わいわい桜祭り に初参加

☆☆☆会の情報発信に一役☆☆☆

佐保川の 川波立たず 静けくも
君にたぐひて 明日さへもがも
佐保川の 清き河原に 鳴く千鳥
かはづと二つ 忘れかねつも

平城京のすぐ東側に広がる佐保地区は、大伴坂上郎女が居を構えていた所で、その地を横切るように流れているのが佐保川である。万葉集に多く詠まれていることから、奈良時代に人々に親しまれた川であり、川が「神」であるという認識があったと伺える。即ち、都の東を流れる青龍として位置づけられたものと思われる。都市造営に当たって用いられた四神相応の陰陽道の思想で、飛鳥川や鴨川などと同様ではないかと考えられる。



近年このように由緒ゆかしき川の整備が進められ、堤防に桜並木が続き、人々の交流の場としての機能が深まりつつある。そのメインイベントとして、「佐保川わいわい桜祭り」が催されるようになった。

佐保川地域社会福祉協議会・自治連合会をはじめ関係諸団体が、手作りで盛り上げてこられ、お互いに絆を強め、桜を通して地域が一つになる原動力となっている。主催関係団体から参加要請を受けて、第13回佐保川わいわい桜祭り（4月5日（土））に出店しました。

【作ろう！「ぶじかえる」「笑顔かえる」】。竹の節を利用したオリジナルのストラップ作りを、地域の皆さんに呼びかけるとともに、会の活動についての啓発を行いました。応援スタッフ11名による懇切丁寧な接遇は、来店していただいた多くの方々に好印象を与えることができたと思う。2才の幼児がお母さんの手を借りることなくチャレンジし、可愛いストラップを見事に創り上げてくれたのが印象的であった。



また、ある年輩の方から、「このような活動は、佐保川小学校だけですか。他の所へは行ってないのですか。」「孫の通っている小学校にも、自然工作や校庭観察指導に出向いてもらえるように働きかけます。」との励ましの言葉を頂いた。花冷えのする陽気ではあったが、地元とも言える佐保川地域の皆さんに「会の情報発信」をするという所期の目的は果たすことができたものと思っている。

都市化の影響からか、戦後は特に人々の生活が川と疎遠になってきた。しかし、改めて川の役割を見つめ直すと、人々が集い相互交流が生まれ深まるという本来の機能に、大きな期待が集まっているのではないかと考えられる。来年も続けて参加させていただきたいと思っている。
(鈴木末一)



自然教室千一ムだより

「万葉の苑 自然観察会」実施報告

4月15日の午後 万葉の苑で自然観察会を行いました。とても気持ちの良い天候のもと 13名の方々が集まり植物観察を楽しみました。

今回の観察会はいつもと少し趣を変えて、事前に田中修著「植物はすごい」を勉強し、その中に出てくる『食べられないように、あるいは病気にならないように』工夫している植物を探して歩くことに重点を置きました。

また春の素晴らしい時期でもあり、様々な草花を眺めること、万葉の苑にある気になる樹木を見て回ることも合わせて目的としました。



陸上競技場入り口あたりから丘の上のあずまやを目指して歩きました。たかだか2〜3百メートルの距離でしたが、あちらに止まり、こちらで眺めといった調子で2時間弱の時間がかかりました。

それぞれに目につく花や葉っぱを示して、「これは何々で、こんな特徴や魅力がある」と説明をしたり、「え〜違うじゃないの」とか言い合いながらの楽しい観察会でした。

「植物はすごい」に関しては『とげで体を守る…バラ』、『渋みや辛味で守る…クリ、カキ』、『苦みや酸味で体を守る…スイバ、カタバミ』、『ネバネバの液で体を守る…タンポポ』、『かさぶたを作って細菌から体を守る…カナメモチ、ナナミノキ』、『香りで守る…クスノキ、サクラ』、『有毒物質で体を守る…ヒメウズ、ユーカリ、キョウチクトウ』、『紫外線から守る…赤い新芽、ツバキの花』等を確認し、植物たちのすごい工

夫を学びました。

このように植物の立場に立った見方を学び、そうした見方で観察していくのも面白いという感想が多かったです。

それ以外にもミミナグサやハコベ、コオニタビラコ、ヒメウズなどの花をじっくり見たり、ヤマモモの葉巻笛やカナメモチとスイバの二枚葉の笛を吹いたり、ユーカリの実を拾って分解したりといった活動も楽しみました。

短い時間でしたが、充実した観察会ができて参加したメンバーは満足のひとときを過ごしました。

**「アースデーinなら2014」
自然観察会 実施報告**

4月20日 明日香の石舞台広場でアースデーの自然観察会を実施しました。主催のならコープさんの依頼で、初めての試みとしてファミリー向けに行ったものです。

「植物はすごい!!」をテーマに、楽しい自然遊びを通じて草木の不思議に親しんでもらおうと、スタッフ5名で知恵を絞りました。

タンポポ、カタバミ、カクレミノ、アオキを中心にその不思議を体験してもらいましたが、おなじみのスカイウォークも用意しました。

あいにくの天候もあって、参加者が予定より少なくちょっと残念でしたが、参加された方々にはしっかり喜んでもらいました。



ファミリー向けの観察会もなかなか楽しいので、これからも機会があれば取り組みたいというのがスタッフの一致した感想でした。

(倉田 晃)

歴史研修会

神武東征の足跡を巡る

神武天皇とは誰れ。知る人ぞ知るである。初代天皇であり、2月11日、建国記念日(古くは紀元節)の立役者である。昭和も遠くなった昭和15年。和暦の皇紀二六〇〇年。この年、橿原宮で即位された事績を記念して、国を挙げて祝賀行事が展開され、私も母親に手を引かれ提灯行列・旗行列に参加した事を思い出す。

その後、日本は激動の時代を迎えるが、通史を辿っても、外敵に侵略される事なく今日の平和を享受するのも、万世一系の天皇が日本人の精神性の根底にあることの実証であろうと考える。あの「空海」にして四恩の教義の中で「国主の恩」を説いている程である。

前置きが長くなった。4月22日。雨の予報も曇り空、少し冷え込んだものの、一滴の雨も無く、27名満席のバスツアーとなる。今日一日、縄文人か弥生人となって史跡を、と朝の挨拶。先ず榛原の墨坂の地に到着。この地は東征を阻む敵軍を墨を焚き撃退したと言う。また壬申の乱では大海人皇子の援軍が集結した地と



庚申堂でのハッピーニング

も言われている。痕跡を残す伊勢本街道・「札の辻」の町並みを通り墨坂神社を参拝。流石、皇祖神の三柱を祀る壮麗な

社殿に圧倒される。

八咫鳥神社へ。山間部ながら田園地帯が読く。既に標高は300米を越え寒気を覚えるほど。東征の道案内として神の化身(建角身命タケツヌミノミコト)八咫鳥を祀る。石造りの鳥のモニュメントが面白い。サッカー協会のシンボルマークで有名だが、三本足の鳥は太陽に住む神とさ

れ、中国の故事に倣うと言われている。当時この地にはカラス族が居たと言う伝説があり、現代感覚で言えば忍者の様な種族が水先案内を務めたのではなかろうか。



参加者集合(八咫鳥神社にて)

阿紀神社(祭神 天照大神。催事 蛭能の舞台が有名)を経て「かぎろいの丘」で昼食。柿本人麻呂(ひむがしの野にかぎろいの...)の詠歌と、滅多に見れない朝焼けの風景が夙に有名である。

午後からも精力的に、宇陀 水分の総社「宇太水分神社」国宝の社殿に佇む。更に神武天皇お手植えの根方が八つもある「八つ房杉」のある桜美神社から青蓮寺へ。悲劇の人、中将姫 隠棲の寺として、なだらかな石段、石楠花が花を開き、椿、若楓、こじんまりした本堂、女人の香気が堂宇を包む静寂のひと時を楽しむ。

最後に、東征最大の激戦地となった「血原」を訪ねる。兄穿(エウカシ)弟穿(オトウカシ)の計略を逆手に勝利する物語り。伝説はこの地が血に染まったと言う。

この小さな旅を通し伝説・仮説・虚構の中で、この国の母体が幾多の神々が愛と勇気をもって形造られて行ったか、日本人の精神性の原点が何んであるか、教えられた一日であった。

参加者の方々、サポート役の岩本先生・古川・弓場 各氏に感謝申し上げます。

(川井 秀夫)

やさしい病害虫講座 1 マラチオンとは？ 木村 裕

少し前になりますが、新聞・テレビなどマスコミで大騒ぎをしていた冷凍食品へのマラチオン混入事件を覚えておられますか？

食品にこの薬品を混入した疑いのある人物が捕まったようで、それ以降はマスコミからは忘れ去られたようにこの話が終わっています。何時、どのようにして混入したか疑問がありますが。

マラチオンとはどのような薬品で、何処で手に入るのでしょうか？

答えは、園芸店やホームセンターに行けば誰でも簡単に手に入る薬品です。園芸薬品コーナーで「マラソン乳剤」として販売されている薬品で、野菜や花のアブラムシやアオムシの防除に使うものです。

化学薬品類は同じ物であっても3種類の名前を持っていることを頭に覚えておいてください。身近な例では、

炭酸ガス：一般名（商品名）

二酸化炭素；成分名

CO₂（シーオーツー）：化学分子名、

それゆえマラチオンは成分名で、商品名がマラソン乳剤です。

皆さんが日々愛用??されている医薬品も同じことがいえます。薬局でもらう薬品には必ず一般名と成分名が記載されています。商品名は販売会社によって同じであることもあれば、異なることもあります。しかし成分名を見れば同じかどうかはすぐに分かります。例えば、味の素は商品名、グルタミンソーダが成分名、化学名は長くて覚えられません。

なぜそのような危険な物が簡単に手に入るのでしょうか？

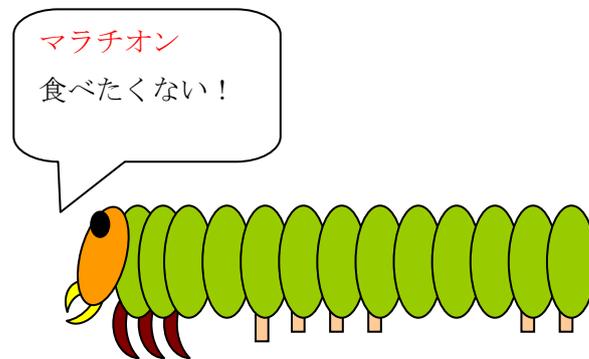
答えは、取り扱いさえ誤らなければ危険な物ではありません。この薬品には強烈な悪臭があり、とても口にいれうるような物ではありません。仮に誤って口に入っても死亡することはありません。実現不可能なことですが、1ビンの薬品を飲んでも死亡にはいたらないでしょう。

身近な例を挙げると、日常料理に使っている塩やお醤油でも大量に飲み込めば毒となり死亡することもあります。現実問題として塩をお茶碗一杯食べられますか？故意に自殺でもしないことにはありえないことです。

もう一つマスコミで取り上げられた中国産の毒入りギョウザ、覚えておられますか？

当初中国政府では日本で混入されたと言い張っていましたが、結論は中国での混入となりました。

この薬品は「メタミドホス」という薬品で、これは成分名です。日本ではまったく販売されていないので商品名はありません。それゆえ、日本では誰かが故意に外国から持ち込まないかぎり混入は絶対にありえないことでした。この薬品自体は日本では存在しませんが、東南アジア、中南米などで広く使用されている農薬です。日本では安全性の点で販売が許可されていませんでした。



現在、日本でもいろいろな病害虫防除に農薬が使われ、虫のつかない農産物が提供されていますが、その安全性については非常に厳しいチェックが行われていますので、皆さんが口に入れる農産物は全て安全です。

輸入品は危ないのではとの話がありますが、輸入品についても安全性チェックを厳しく行っておりますので心配はいらないでしょう。しかし、海外のレストランで使われる物についてはどこまでチェックされているかは分かりません。



隠れ古社寺 ひとり旅 ⑩

村社 天満神社

歴史文化クラブ
川井秀夫

生駒市誌を読むと、びっくり仰天。太古の昔、**生駒山は島だった**と言う。それを裏付ける証しが生駒北部の山里にあると聞き、桜の散り初める某日、その古社を訪ねて見た。

北生駒から30分。終着駅の「傍示」で下車。こんな身近に鄙びた集落があったのかと、異郷に入った様な錯覚を覚える。

バス停の前に五本の染井吉野の古木が迎えて呉れる。一陣の風に花吹雪、今年の見納めと、暫し地図を開き所在ルートを確認するが、初めての地域で頭が混乱するばかり。

集落の家並みは瓦葺きの本建築。畑地・山林も広がるが、この家々の生業は何んなのか、人影が見当たらない。

やっと畑で農夫に出会う。「この辺りに社はありますか」「いや土地の者じゃなく他所から来ているので」「向こうの丘の上の銀杏の大木の辺りに何かあった様に思いますけどな」と、いたって不得要領。

藁にすぎる思いで登り道を行くと、お寺と背中合わせに鳥居を発見。やれやれと一服。

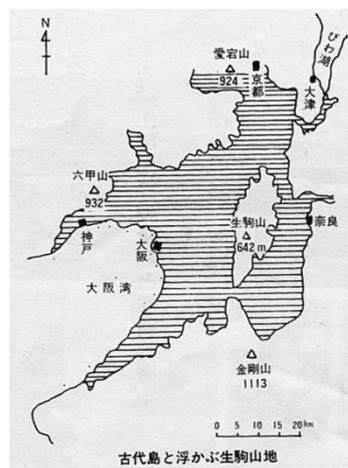


石標に村社 天満神社とある。石段を上がると形ばかりの拝殿。左右に平妻造りの屋根が伸び、本殿は一間造りの殿舎が二つ。大阪天満宮の末社であろうか。拝殿のしめ縄の中央に、お粗末な戦前の電柱に取り付けた裸電球が印象的。

市誌には、この地のどこを掘っても丸い玉砂利の様な小石が出ると言う。帰路、軒先で中年のご夫婦と会い、話を聞くと、100米ほどボーリングすると海底にあった石が出てくると仰有る。



有史以前の地質時代には、古大阪湾は現在の京阪神の全域に拡がり、山麓まで水域が湾入し、湾に浮かぶ緑の島が今の生駒山の姿であったと記録にのこされている。



年代を経て海底爆発による隆起・沈降を繰り返し原形が出来たとある。

記述によれば、この頃、琵琶湖の形が崩れ古大阪湾と繋がり生駒谷辺りは淡水化し、縄文人が宝山寺辺りの水辺で漁をして居たのかも。そんな風景を想像して見たくなる。

生駒市の地形を見ると、生駒谷の低地に比べ東北部は小高い丘陵が多く、この天満神社も、私の住む鹿ノ台も、高所は湖水に突き出た島嶼を形成していたのかも。

この地域にある朱智神社・笠上神社を訪ねる予定だったが、「おかげ道」と呼ばれる古道が交錯し、準備不足もあって後日に見送り家路を急ぐ。

春ビール足の疼きを忘れたり 秀夫

飲みびとのたわごと楽し花筵

池田富子

「のらの会」生駒山麓での花見酒。殿方も媛御も無礼講。落花を着に時を忘れる。明日に向けて乾杯。

けいはん

畦畔の群れの愛しやふぐり花

阿部和生

草花の春の使者はオオイヌノフグリ。気が付けば畑地に満天の青い星屑の様。春の到来を実感する。

少年の両手で追ひし落花かな

阿部和生

作者の少年期の追想か。桜散る風情に日本人の心が宿る。少年老ひ易く・・、花また散るを惜しむの心境。

里の香のおこげおこげと土筆飯

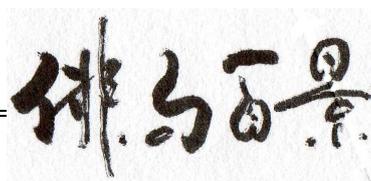
鈴木末一

土筆飯が新鮮。お釜に焦げついた混ぜご飯を好む人が多い。おこげのリフレインが効く。今宵、私は筍飯。

咎めなきこんな道草土筆摘む

鈴木末一

春は山菜の旬。野道に摘みびとが足を止めて夢中。遅くなっても、夕餉のお絵菜だから勘弁してね。



監修 川井秀夫



連翹を一輪啜え鶉の伊達

古川祐司

庭先に来た鶉が、花を口に飛び立つ様を捉え伊達者と言う。見立て俳句の真骨頂。伊達の押さえが秀逸。

どこまでも桜の帯の背割かな

八木順一

四月例会。淀の背割堤は好天に恵まれ花見客に溢れる。雄大な桜並木は人々を飲み込む様。正にさくらさくら。

巨勢寺の礎石に手向く落椿

八木順一

三月例会。古刹跡、礎石に往時を偲ぶ。椿を武士は忌み嫌うが、元々吉兆の花。自然の供花か。

薄幸の媛のみささぎ椿詣

西谷範子

歴・文 五条下見。古寺の庭で椿の花びらを丹念に拾う作者。翌日、里山にて薄紅に染まるお鮎を頂く。美味。本心は非業の死を遂げた内親王への供物であつたらうか。

土筆摘む双手に零る青胞子

川井秀夫

巨勢の道に春野が広がる。土筆・甘草の群生に列が乱れる。女性たちの手から、若い胞子がこぼれる程に。春の恵み。



麗しの春おゝらかに

谷川 萬太郎

心地よい4月の風が首筋を優しく撫で あたり一面に春の匂い漂いて
 季節の花に満ち溢れた春に蘇る山里は 絵葉書から飛出したように美しい
 吸い込まれそうな青く澄んだ空は高く どこまでも果てしなく天空に拡がる
 偽りのない心を映す鏡のような春の光よ 眩しさに薄目を開けながら微笑む
 沢の水が音を立て流れ始めた春の日 固い土を破って生れ出た若芽よ

散りゆく桜の花弁を追いかけた日々も 今は儚い過去の夢の中に消えた
 哀しみのない自由な空へと飛び立ち その願い叶うまで追いかけてよう
 晴れ渡る大空の向うで戯れる鳥たちは 小さな胸に幸せ育み飛び交いて
 春の衣装を身に着けた花達が揃って 出迎える山里にも賑わいを運ぶ
 美しい緑色の袴に身を包んだ野や山は 遠く人里離れた山彦の隠れ家だ



「もてなし」

竹本雅昭

桜：お目出とう。東屋君、立派に誕生ね。

東屋：早速声を掛けてもらって安心しました。

桜：私も弟が出来た様で楽しくなるわ。もっとすこい花吹雪で歓迎したいんだけど、まだまだおぼこでご免ね。

東屋：有難うございます。でも少し心配なんです。これから多くの人々に利用して頂けるかと。

桜：竹林を背景にして頑丈に作られた貴方を一目見たら、
 ‘東屋の 風情に思わず 句会かな’
 な～んて調子で散策の人々も休んで行かれるわ。

東屋：光栄です。姉さんの舞々で一杯と言う人もおられるでしょうね。

桜：その時は任せて大いに歓迎しましょ。でも一緒になって酔払ってはだめよ。えらい事になるからね。

東屋：足元フラフラになったら瓦まで落ちてしまうもんね。気を付けます。それからジョギングの人達も寄ってくれるかな。

桜：馬鹿ね。ハッハッて走ってる人を呼び止めたらおこられるよ。よく見て、ここで元気に働いておられる翁位の人だったらまずOKね。

東屋：分かりました。姉さんに何でも相談してからにします。ムツカシイ・・・な





油彩画 (辻本愛子) 「ベルギー・運河のある街 ブルージュ」 墨彩画 (羽尻 嵩) 「芽生え」
陶芸 (小島武雄) 「おすまし猫・白土、黒化粧、釉薬 (石灰透明)」
折り紙 (辻本信一) 「鹿とバッタ」 カトレア (坂東久平) 「Pot. Love Tapestry」



▲ ベルギー・運河のある街 ブルージュ



▲ おすまし猫



▲ 鹿とバッタ



▲ 芽生え



▲ カトレア

古都法買入地管理・使用協定ついて

私たちのならやま景観整備活動地は、奈良県より借りて使用しています。この程、契約更新ができましたのでこの契約内容について少し説明します。

1. 契約の開始

平成19年4月12日 当時の奈良県知事柿本善也氏と当会代表者川井秀夫氏(現顧問)との間で、風保第79号「行政財産使用許可書」として締結されました。私たちが「ならやま里山林」と呼ぶ奈良市佐紀町と奈良阪町の64,783㎡で、景観形成事業許可条件のもとに使用したことに始まります。

順次、当会の呼称で「ならやま彩りの森」(H22/12)、「佐保自然の森」(H23/11)、「ならやま自然の森」(H24/2)、「第5地区」(H24/4)の契約となっています。

2. 契約の更新

現在活動している県有地の借用期限が平成25年12月31日迄でしたので更新を申請していました。

平成26年1月4日付で契約締結ができ、これにより平成26年1月1日から平成29年3月31日までの契約となりました。

3. 主な変更点

①各地区ごとに個別協定となっていたものを今回から、「ならやま里山林」から第5地区までが一つの協定書に集約されました。

②「佐保自然の森」は従来別個の協定でしたが、協定書の一元化を図るため、今回から同じ協定書に入れられました。ただしこれまでの経緯を踏まえ、他の管理地とは異なり、第2条で「奈良県と協議して協働で管理するものとする。」となっています。

③予てよりの課題でした収穫物等の処分については、{耕作等により対象地から得られた収穫物等は管理・使用者の自由な処分に委ねる。ただし得られた収益は古都法買入地の管理費用に充て、使用に関して必要とされる経費については管理・使用者が負担すること}となり、収穫物を会の運営費に充当するという条件で、自由に外部に販売できるようになりました。

④「ならやま自然の森」は、対象面積を当会からお願いし0.8haから4.3haに増やしてもらいましたが、管理方法については自然のままにしておき、散策路の構築・整備を中心に活動することは従来通りです。

⑤契約書名、契約当事者の変更

- ・「行政財産使用許可書」が「古都法買入地管理・使用協定書」に変更されました。
- ・契約者が県知事名から景観・環境局長名に変更されました。

4. 協定書の(維持管理等)の規定について

『第3条 乙は、甲が定める「古都法買入地管理・使用条件」を遵守し、対象地の維持、巡回、清掃及び補修等の維持管理を行うものとする。

一 乙は、毎年承認された管理・使用計画書に従って対象地を適切に管理し、使用をすること。

二 乙は、善良なる管理者の注意をもって管理し、耕作地以外の対象地については、甲が古都法買入地において行うものと同等以上の管理を行い、周囲の歴史的風土と調和するよう留意すること。

三 耕作等により対象地から得られた収穫物等は乙の自由な処分に委ねる。ただし、得られた収益は対象地の管理費用に充て、使用に関して必要とされる経費については、乙が負担すること。

五 乙は、毎年5月末までに、前年の管理・使用実績について報告すること。

六 乙の管理・使用により事故が生じたとき又は三者に損害を与えたときは、甲は一切責を負わない。

(一～六項は原文、七～十一項は省略します)

6. 対象となる土地一覧

No	所在地	面積(㎡)
1	「ならやま里山林」 奈良市佐紀町 3573-4 ほか	73,978
2	「佐保自然の森」 奈良市法華寺町 1503-3 ほか	20,364
3	「ならやま自然の森」 奈良市奈良阪町 2737 ほか	43,041
4	「ならやま彩りの森」 奈良市佐紀町 1424-6 ほか	2,193
5	「第5地区(仮称)」 奈良市奈良阪町 2735-3 ほか	20,216
	計	159,792

今回の契約更新経緯を振り返り、当会は管理・使用協定書の第1号として、今後とも協定書を遵守し積極的な活動を期待されていると思います。

みなさん、明るく、元気に、楽しく、無理をせず!ならやま活動に取り組みましょう。

(事務局:塩本)

ならやまプロジェクト

活動予定日

5月	1 (木)	8 (木)	15 (木)
6月	22 (木)	29 (木)	
5月	5 (木)	12 (木)	19 (木)
6月	26 (木)		

◆ 場所：奈良市奈良阪町・佐紀町の県有林
[ならやま会館前道路（ならやま大通り）の南側に広がる里山林地]

◆ 集合：現地ベースキャンプ地・午前9時

◆ 終了予定：午後3時

*. + ★ ————— *. + ★ ————— *. + ★

5月1日

<里山 Gr> 伐採済コナラの薪割り・焼却、枝葉整理

<工房 Gr> 畑：ピーマン・唐辛子類・トマト
植え付け・茄子畑・サツマイモ畑整備

蕎麦：第5地区緑肥用ひまわり播種
蕎麦畑（早川）チップ散布

果樹園：第5地区 橘・ツツジの植樹

<景観 Gr> B.C.、彩の道草刈り・駐車場周辺
草刈り（第2・3駐車場）

ドイツアヤメ園草引き、夏花種まき・
ならやま池生物調査、池の整備

5月8日

<里山 Gr> 未伐採カシナガ侵入コナラに
虫ムシホイホイの巻き付け

<工房 Gr> 畑：サツマイモ植え付け、
インゲン豆播種・水田耕起、下仁田葱定植、
茄子植え付け・蕎麦：蕎麦畑（早川）耕起・
緑肥用ひまわり播種・果樹園：第5地区・
C地区果樹灌水、チップー枝処理

<景観 Gr> 彩の道草刈り・ビオトープ園整備、
春花の撤収・池の整備



アクセス

① JR平城山駅下車：東口から南へ徒歩10分

② 近鉄奈良駅：バス13番乗り場

8：27発、高の原行き（平日）

③ 近鉄高の原駅：バス1番乗り場

8：38発JR奈良駅行き（平日）

②③とも「佐保台西口」又は「平城大橋」下車
徒歩7分

◆ 携行品など：弁当、飲み物、
軍手（作業用具は現地で用意）



◆ 環境保護のため、お椀、箸、コップなどは
各自ご持参下さい。



◆ 連絡先：木村 裕

*. + ★ ————— *. + ★ ————— *. + ★

5月15日

<里山 Gr> 未伐採カシナガ侵入コナラに

虫ムシホイホイの巻き付け・ホダ場作りと
本伏せ準備

<工房 Gr> 畑：茄子・トマト類支柱立て、
綿・落花生播種・南瓜・ゴーヤ・オクラ
植え付け

蕎麦：第5地区蕎麦畑排水工事・果樹園：第5
地区・C地区果樹灌水、チップー枝処理

<景観 Gr> ならやま会館前草刈り・畝作り、
夏花移植・ならやま池生物調査、池の整備

5月22日

<里山 Gr> 伐採済コナラの薪割り・焼却
ホダ場作りと本伏せ・薪棚の製作

<工房 Gr> 畑：水田畦整備、水路整備（取水
・排水口）蕎麦：第5地区蕎麦畑排水工事

果樹園：第5地区果樹調査・病虫害等対策
<景観 Gr> B.C. 付近草刈り・機械整備・施肥、
草引き・池の整備

5月29日

<里山 Gr> 伐採済コナラの薪割り・焼却
薪棚の製作

<工房 Gr> 畑：田植え準備、豌豆収穫
果樹園：筍収穫後の竹林の養生（施肥）

<景観 Gr> 全体で、適宜ごみ拾いや溝掃除
倉庫整備・佐保自然の森一草引き・耕耘
種まき・ならやま池生物調査、池の整備



行事案内 part 1

歴文5月研修会のご案内

5月・月例研修会のご案内

生駒の知られざる秘境を探索!

緑の美しい季節に生駒山麓を歩きます。

生駒山系をわが庭のごとく調査、観察し記録する貴重な自然人であり、道なき道も踏破される実践実力派の飛田太一郎さんに、普段ハイキングや植物観察では足を踏み入れることのない生駒山麓の秘境を案内していただきます。新しい発見が期待できそうです。

1. 日時：5月14日(水)
2. 集合：近鉄生駒駅 中央改札口前
9時30分
3. 解散：生駒山麓公園ふれあいセンター
15時予定(※)
4. 観察ポイント：山野草と水辺(池)の植物
5. 歩行距離：約3.7km
6. 持参するもの：
昼食、飲み物、雨具(合羽)、ビニール袋(野草等の採取用)、ルーペ、図鑑
7. 装備：軽登山用靴、手袋
8. 担当：自然教室チーム
平岡 080-3133-3700
高本 090-9625-1293

(※) ふれあいセンター発バス時刻表
15時32分発 16時32分発
17時32分発 18時32分発(最終)
(近鉄生駒駅南口まで約16分100円)



「五條市の歴史散歩」

風薫る五月、歴史と自然を訪ねて、紀ノ川に面する五條市を訪ねます。古代、紀水門と奈良を結ぶ水陸交通の要衝として、中・近世では、高野街道・紀州街道、奈良街道、伊勢街道の交点として栄えた歴史の街です。

今回もマイクロバスを活用して、広い範囲に点在する史跡や日本最古の民家などの文化財を訪ねてまわります。藤原仲麻呂の建立した栄山寺、この地に20以上もある御霊神社、維新の先駆け天誅組跡などは、歴史ロマンを大いにかき立ててくれます。ご期待ください。

皆様のご参加をお待ちします。

1. 日時：5月19日(月) 8:30集合
2. 集合場所：中小企業会館前(近鉄奈良駅東)
3. 行程：(雨天でも実施します)
近鉄奈良駅(8:30)⇒桜井寺(天誅組本陣跡)⇒五條新町(重要伝統的建物群保存地区)⇒民俗資料館(五條代官所跡)⇒栄山寺拝観(国宝八角堂・梵鐘、ご本尊)⇒昼食⇒御霊神社⇒井上内親王宇智陵、他戸親王墓⇒(帰途)近鉄奈良駅着(16:30の予定)
4. 参加費用：2500円
5. 定員：25名(申込順に受け付けます)
6. 申込期限：5月7日(満員になり次第締切)
7. 申込：メールかFaxでお申込み下さい。

歴文事務局宛

(担当世話人 川井秀夫、西谷範子、中井弘)



行事案内 part 2

平城京天平祭・春のイベントのご案内

今年も当会は、5月3・4・5の3日間、平城宮跡で開催される天平祭に参加します。

昨年のものでづくり体験こども広場で、「こいのぼり」「ペンダント」「ブンブンゴマ」づくりは大好評でした。今年は3日にならやまベースキャンプで当会主催の「わくわく！ドキドキ！お山を歩こう！」のイベントがありますが、天平祭実行委員会より強い協力要請があり3日は少数精鋭で参加します。

みなさま、4・5日はご家族お揃いで催し物、美味しいもの一杯の平城宮跡へお越してください。お待ちしております。

「奈良・人と自然の会」のブース：

- ・日 時：5月3～5日(3日間) 10～16時半
- ・場 所：サッカーグラウンド(佐伯門付近)
- ・雨天決行です。
- ・出し物：「こいのぼり」「かえるストラップ」づくりです。

都合のつくみなさま、ものでづくり体験のお世話、アドバイスにもご協力ください。

(事務局 塩本)

奈良学クイズ



【問】写真は、著名な国文学者の方です。

- ① お二人に共通する研究分野について漢字3文字でお答えください。
- ② お二人のお名前(姓名)を漢字でお答えください。

6月・月例研修会の予告

「万葉のふるさと明日香追想」

6月9日(月) 9:30 橿原神宮前駅東口集合
9:41のバスに乗ります。遅れないようにお願いします。

6月の月例研修会は明日香をご案内します。今回は石舞台古墳から明日香川に沿って稲渚方面に万葉の歌碑を巡ります。案内は万葉集大好きな杉本がしますと言いたいところですが、水本さんをお願いしました。水本さんは著名な万葉学者故犬養孝先生の直弟子で犬養万葉記念館の副代表もされております。犬養先生は私も尊敬しています、先生は万葉集は詠うものとおっしゃっています。古代の人々は声に出して詠っていました。水本さんも犬養先生直伝の犬養節で高らかに詠われると思います。私の好きな万葉集の歌に大津の皇子が石川郎女に送った歌があります。

「足ひきの 山の雫に 妹待つと 我立ち濡れし 山の雫に」貴女を待っていたら明け方の朝露にぐっしょりと濡れてしまったよといった意味ですが、石川郎女の返歌に「吾(あ)を待つと 君が濡れけむ 足ひきの 山の雫に ならましものを」私を待っていてあなたは山の雫に濡れておしまいになった できることならその雫に私はなりたい。男女の相聞歌の秀逸だと思います。このように万葉集の歌は心情や感情をストレートに表現するのが特徴です。初夏の一日古代人の想いにひたってみませんか 多くの皆様のご参加をお待ちしています。(担当 杉本 登)



【応募要領】

メール or FAX で、5月3日締切です。

【4月号の答え】

- 問1：光明皇后
問2：わが背子と 二人見ませば 幾許(いくばく)か この降る雪の うれしからまし
問3：浴室・からぶろ

平成26年・4月度幹事会報告

- ◆日時：平成26年4月1日(火)
17:00~20:30
 - ◆場所：奈良市生涯学習センター
 - ◆出席者：幹事17名 顧問2名
 - ◆案件：
 - ① 会員動向、会計報告 (会員は144名)
 - ② 例会、自然教室、ならやま等の活動報告
 - ③ GGプロジェクトの推進状況
 - ④ 古都法買入地管理・使用協定書について
 - ⑤ 林野庁の交付金事業への取り組み
 - ⑥ 第13回通常総会議案書(案)について
 - ⑦ 第13回通常総会のスケジュールについて
 - ⑧ 5/3~5天平祭の自然工作出店について
 - ⑨ 佐保川わいわい桜祭りの出店について
 - ⑩ ネイチャーなら5月号の編集について
 - ⑪ 4~6月の行事予定の確認、その他
- 以上

ペン画に寄せて

境 寛

今回は、『富嶽三十六景』の版画をペン画に模写したものです。

ご承知の通り、『富嶽三十六景』は、葛飾北斎の作成した代表的な風景画です。甲州石班澤は、「石班澤」を「かじかざわ」と読むのは、カジカと「石斑魚(ウグイ)」を混同したための誤記と考えられています。

江戸時代後期の浮世絵師葛飾北斎による富士山を描いた富士図の連作で、天保2年(1831年)から天保4年(1833年)頃にかけて刊行されました。「甲州石班澤」では、甲府盆地を流れる釜無川・笛吹川が合流し富士川となる鰍沢(山梨県富士川町)が描かれています。鰍沢は富士川舟運の拠点で、兎の瀬と呼ばれる難所で、投網を引く漁師の傍らには子どもと籠が描かれています。

申し合わせ 事項

ならやま環境整備活動や野外行事は、前日午後7時前のNHK TV天気予報で降水確率が午前60%以上の場合は中止になります!!



年度はじめは、各種団体等の会合が目白押し。構成メンバーにより雰囲気千差万別である。初会合を開いた「地域活性化プロジェクト」の末席に名を連ねた。県外出身者が半数を占めていたが、奈良への憧れと期待感を込めて「熱き思い」を異口同音に話されるのを聞き、地元民にとって恥ずかしい限りであった。月2回の会合で、「どのような提案を」大きな課題が与えられた。発想の転換が求められる。(里山人)

訂正・4月号

「例会年間計画」解説文の誤った記述を訂正させていただきます。

- ① 8月例会：「伊吹山」頂上付近には・・・生育します。→(正)「伊吹山」頂上付近は美しい「お花畑」になっていて、高山植物・亜高山植物が数多く見られます。
- ② 10月例会「芦生の森」：専用バスで一日周遊します。→(正)専用バスを使い、ネイチャートレッキングを行います。(寺田 孝)

会報誌[ネイチャーなら]・第148号

発行：奈良・人と自然の会
会長 藤田秀憲

<http://www.naranature.com>



6月号の印刷・発送予定について

日時：平成26年5月28日(水)am9:00~於
：奈良市ボランティアセンター



編集チーム・代表 鈴木末一